

# オリーブの会通信

2011年8月9日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会  
〒760-0078 高松市今里町一丁目 499-2  
連絡先 TEL/FAX 087-843-9877 (川井)  
<http://khj-olive.com/>



## 第110回月例会ご案内

日 時	2011年8月28日(日) 13:00~受付 13:30~16:30
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 会議室 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334
内 容	13:30~ 開会 13:30~13:40 : 報告・連絡(川井・東條) 13:40~15:00 一部 講演 テーマ: 「ひきこもり地域支援センターの役割と利用について」 香川県ひきこもり地域支援センター 保健師 藤田 順子 氏 15:15~16:30 二部 グループ別話し合い ※ご家族でご参加ください。
参 加 費	・会員 1家族 1000円 ・非会員 1家族 1500円

### 「第3回全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）支部長会議より」（概略）

去る 7/23・7/24 サンヒルズ三河湾（愛知県蒲郡市）において 40 名の出席者のもと標記支部長会議が開催されました。第 1 日目は 13：30 会議に入る前、世話役支部のなでしこの会 伊藤理事長より挨拶があり、そのあと全員起立して、天国の奥山前代表へ黙祷をささげました。議長の中垣内（副代表理事）先生の会議進行のもと、全国組織の親の会である KHJ として、奥山代表亡きあとの方向性決定、また本部、支部、支部長の役割（案）を承認する大変大事な会議で、真剣に討議がなされました。池田代表理事が説明されるなか、担当支部として引き受けられるのか、またその内容についての質問、検討がされました。

① 親の会の方向性について（提案・検討・決定）：旅立ち 61 号（7 月 3 日発行）に掲載の 1～9 項目を骨格として方向性を決めていく。今 情勢が大きく変化してきているので、項目も追加されたりして変わる場合もある。

② 本部の役割・支部の役割・支部長会議の役割（検討・決定）：一覧表（案）の 1～20 事業のうち 2)「旅立ち」編集 発行：編集委員長 境先生・編集委員 中垣内先生 年 4 回発行 一部 50 円 送料着払い 3) 全国調査 研修事業ですが、境先生が担当されるので、依頼があれば四国の支部が協力するという程度とのこと。4) こころの健康構想実現会議へ積極的に参画しよう。（心の疾患は WHO 世界三大疾患の一つであることから、会議への参加、署名運動の推進。）・・・7 月 24 日の例会では署名に協力していただき有難うございました。8) 親の対応講座（学習会・家族会）家族会全国展開をしていく。（オリーブの会 親の学習会予定。）など。

③ 愛知県から受託「生活困窮者支援事業」について報告：なでしこの会 伊藤理事長より・2000 万円の補助金事業の企画作成で竹中先生のお力が大きかった。・社会福祉協議会との連携・NPO 法人になること・120 家族の会員がいるので人材が豊富である。・役員のほかに運営委員 15 名が本音でやってくれた。・会員の英知を出すことを目指す。など参考になるお話を聞かせていただいた。また一桁額が違うが、事業の成果の報告が大変で、事務局のスタッフがダウンしたという支部もあり、私も助成金額に関係なく事業を進めるにあたり、昨年は同様の苦しみを感じていたので変わらないなと思いました。

2 日目は 8：30 より開催。大分の松本理事長より「ひきこもり支援相談士」について提案がありました。KHJ との関係について・支部に連絡があった場合その人たちとの関わりをどのようにするか。そこで東東京・千葉・京都・大分の現状をお話いただきました。

池田代表からは、KHJ 親の会に入っていて勉強してほしいとお話でした。すでに実行されている支部もあるようです。千葉などは一緒に活動されているという報告がありました。また訪問サポート士の研修事業も今後本部のほうでやるという池田代表のお話でした。

当日の研修：①「ひきこもりは人材の宝庫」（講師 中垣内 正和）②「全国組織としての親の会の再構築」（講師 境 泉洋）③「親の対応（回復成功版）の勧め」（講師 池田佳世）の三講演とあり、時間の関係で駆け足になり少し残念でしたが、境先生のお話から、大半の親の会、また会員一人一人が考えを新たにする必要があったと思った。

最後に来年度の「第4回全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）支部長会議」及び「全国大会」開催地は、京都（NPO 法人京都オレンジの会 稲垣理事長）が引きうけて下さいました。

（川井）



### 【7月例会（7/24）の報告】（概略）

本格的な夏の暑さを迎えていますが会員の皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。

去る7月24日の例会は、第6回全代研東京大会の基調講演内容のビデオによる学習の後、「グループ別話し合い」の持ちましたが、多数のご参加をいただき意義ある例会になりましたことを感謝申し上げます。当日は、全国支部長会議（於：蒲郡市）出席のため理事長は不在でありましたが「グループ別話し合い」は初めての出席者や、久しぶりに参加された方々も加わり、活発な体験談や討議がなされたとお聞きし喜んでおります。本年度から月例会の運営を2つのグループによる2か月ごとの自主的運営体制に移行しましたが、その効果を感じながら、ますますオリーブの会の目的に沿った会の運営が全員参画によってなされることを願っています。

### ◇グループ別話し合い（概略）

- 参加者 女性17名、男性11名（男女にグループ分けしたが、内容は一緒に記載）
- お盆に息子(娘) {以下当事者} の兄弟が、帰ってくる。当事者に対する影響が心配。また。兄弟の家族との関係、特に孫たちが、当事者に対してどう思うか、どのように行動するかが気になる。今まで帰ってきて、大きな問題はなかったが、帰ってくるまで気がかりだ。（兄弟およびその家族が帰省することを、受け入れている当事者が、多かったよう。）  
普段から兄弟やその家族との交流の機会が多い親からの経験談が話された。
  - 池田佳世先生（全国親の会代表）の講演、著書が大変参考になった。親が、当事者のすべてを受け入れるということ、また一生懸命になるということ。いいタイミングで良い話を聞くことができた。それ以来、生活の中で実行するようにしている。
  - 当事者が動き出したきっかけは何か。
    - ・カウンセラーのアドバイスで母親が、週に何回か家を空けるようにしたら、外に出られる様になり、父親との関係もよくなった。
    - ・数ヶ月前から動けるようになった。親が、当事者のすべてを受け入れ、また一生懸命になることは大切。
    - ・今、働いているが、人間関係の経験が少ないので苦労しているようだ。
    - ・好きなことをするのにお金がかかるので、今アルバイトをする気になっている。  
アルバイトに必要な用具を店に買いに行った。
  - 新ガイドラインの話があった。

- ・国の支援が強化されてきたと思う。
  - ・長期の支援が必要。
  - ・親の会の存在意義は大きく必要性が高い。
- 当事者が現在の状況に置かれている根本には、人との関係性がうまくできないことに起因しているように感じられどうにもいたたまれない。
  - 年数回の散髪に戸外に出るだけで、それ以外一步も外に出ない現状が長く続いている。
  - 日常何でもない散髪ではあるが、当事者にとってはこれほど他人と近距離になり、しかも相当時間もかかり、かつ相手は刃物をもっているため本人にとっては想像を超える負担感があるのとのことである。
  - 現在、アルバイトを相当期間継続できており喜んでいるが、家庭内で親との会話が全くといっていい程無い現状であり、どうして仕事ができているのか不思議な感をもっている。
  - 2か月仕事が続くと今度は2か月引きこもり、2年間働くとその後2年間引きこもるという状況が続いている。
  - 親も高齢期に入り当事者も40歳代になり将来のことを考えると障害者認定を得て障害者年金、あるいは生活保護の受給を視野に入れ未成年期に心療内科で診察証明の入手の手だてを考え始めているところである。(カルテの保存義務期間は5年間であるが、病院によりそれ以上の期間保存している場合が少なくない。)
  - 会が終了して  
エレベーターホールやロビー、会館の前の歩道で、当事者とその兄弟(姉妹)達との関係や、一度出られるようになって、再度出られなくなった当事者を抱える親、それぞれ同じ悩みを抱えている人たちの会話の輪が何組かできていた。

以 上

### 【平成 23 年度第 1 回 香川県ひきこもり対策連絡協議会】の報告

去る 6 月 20 日「香川県ひきこもり地域支援センター」開設に伴い、県内のひきこもり対策の推進を図るため標記連絡協議会が設置されました。

そこで 8 月 2 日 (火) 13:30 から香川県高松合同庁舎において「平成 23 年度第 1 回 香川県ひきこもり対策連絡協議会」が開催され、香川県ひきこもり地域支援センター長(香川県精神保健福祉センターの所長でもある)の藤岡邦子先生からは、これまでしてきたセンターの事業を基本に仕事をしていくようにという評価をいただいたものと解釈しているとの挨拶があり、各委員(19名のうち1名欠席)の自己紹介、そして議題が話し合われました。

また、話題提供ということで徳島大学大学院准教授 境泉洋先生の講義があり、テーマは「ひきこもりの評価・支援に関するガイドラインの理解と活用」でした。最後に藤岡邦子先生から、ガイドラインをベースにみていきたい、またすでに支援にあたられているケースについて、一からお話を聞くのではなく、「コンサルテーション」の活用について説明がありました。

(進行 ひきこもり地域支援センター 藤田順子保健師)

### 【8月 居場所活動予定】

内 容	日	曜日	時 間	担 当
第4回運営委員会	6日	土	13:30～	川井
個人カウンセリング（松田先生）	27日	土	9:00～	加藤
お遍路さんのお土産作り *自宅で協力いただける方はお電話く ださい。	6日	土	10:00～12:00	川井
ポパイの会 パソコン教室	7日	日	13:30～	森下

### 次回【111回 月例会予定】

日 時	2011年9月25日（日）13:00～受付 13:30～16:30
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 研修室
内 容	親の学習会
担 当 G	Bグループ

### 【親の学習会のお知らせ】

KHJ 本部 20 事業の一つである親の対応講座（学習会・家族会）を下記の通り開催いたします。目的は一貫性をもった学習会を親同士が続ける、人格を上げていこう、親が変わろう、死に物狂いで殻を破ろう、親が変わった子は回復（快復）していく。親の視点にたった講座です。自分たちで考えながら進めていきます。

なお開催場所につきましては、香川県精神保健福祉センター所長 藤岡先生にご配慮いただきました。

日 時	2011年8月29日（月）13:30～16:30 18:00～（終了時間未定） 2011年8月30日（火）10:00～12:00 13:30～16:30
場 所	香川県高松合同庁舎 4階 第2会議室（高松市松島町1丁目17番28号）
内 容	親の学習会 講師：池田佳世代表・高橋 晋（元当事者・電話相談等担当）
受 講 料	参加人数で決めたいと思います。（池田代表の旅費は本部負担です。） 2日間の都合付かない場合は、1日のみの受講も構わないそうです。
担 当	講座申し込み受付：川井 携帯（090-4332-3288）へお願いします。
締 切 日	8月25日（木）

### 【公開講座のお知らせ】主催：全国ひきこもり KHJ 親の会高知県支部やいろ鳥の会

日 時	2011年9月24日（土）13:00開場 13:30～16:00
場 所	男女共同参画センター・ソーレ 3F 大会議室 （高知市旭町3丁目115 ☎088-873-9100）
内 容	ひきこもりの理解と支援 -ひとのなかへ 社会のなかへ- 講師 竹中哲夫 日本福祉大学名誉教授・臨床心理士

